

オンライン大学における学習ポータル構築の実施報告

加地 正典^{*1}, 塩沢 美由紀^{*1}, 宇野 令一郎^{*1}
 Masanori KAJI^{*1}, Miyuki SHIOZAWA^{*1}, Reiichiro UNO^{*1}
^{*1} ビジネス・ブレイクスルー大学
^{*1} Business Breakthrough University

Email: kaji@bbt757.com, miyukishiozawa@bbt757.com, uno@bbt757.com

あらまし：ビジネス・ブレイクスルー大学では、全学向けのお知らせから科目内のアナウンスにいたる各種情報伝達を、ディスカッションを主軸にした学習システム上で行っていた。科目の課題や履修登録をはじめ、重要なお知らせが読まれていない、あるいは見つけられないという問い合わせも無くならなかった。これらのことから、学習システムをコミュニケーションにも使用することのメリットとデメリットを再考し、ポータル構築を機にオンライン大学の運営の質向上を図った。

キーワード：オンライン大学, 学習ポータル, LMS

1. はじめに

株式会社ビジネス・ブレイクスルー⁽¹⁾(以下BBT)では、インターネットを活用したオンラインコースを多数開講している。

2005年には文科省認可の株式会社立大学としてビジネス・ブレイクスルー大学院大学⁽²⁾(現在は大学大学院)を開学、2010年には学部⁽³⁾を設置しているほか、公開講座や科目等履修の制度により、短期のコースも含めた機会提供を幅広く行っている。

BBTでは非同期型オンラインコースのプラットフォームとして、ディスカッションに特化したAirCampusを2002年より提供、映像講義配信や課題提出機能等の追加からスマートフォン向けアプリの開発⁽⁴⁾と、機能改善を重ねてきた。

オンラインコースの運営にあたっては、科目の受講はもとより、大学からのお知らせや科目内のアナウンスメント、学生同士のコミュニティに至るまでをディスカッション機能を用いて運営⁽⁵⁾してきた。

2. 学習機能で全てを行うことの限界

入学して挨拶を交わすところから大学からのお知らせを読み、クラスディスカッションに参加するかたわらサロンで雑談をする。単一のツールを使うことは覚えることが少ない点がメリットである一方、情報伝達の目的や種類、期間などの属性がそれぞれ異なり、機能的にもバランスが難しいことが現実の課題となってきた。これは、4年制の大学と3ヶ月の公開講座とでは大きく事情が異なる点でもある。

AirCampusも、その改善の積み重ねにおいて、どうかお知らせを読んでもらうよう工夫を重ねてきた。一例を挙げると、BBT大学の開学と同時に本格的に利用を開始したWeb版では、未読アナウンスメントがあるとログイン時に通知し、そのコース(科目)を開くことができるようにした。(図1)

アナウンスメントの既読率は総じて高かったが、掲載しているお知らせが見つけれず問い合わせ

てきたり、課題の内容を確認できずに締め切りを過ぎてしまったりするケースは無くならない。

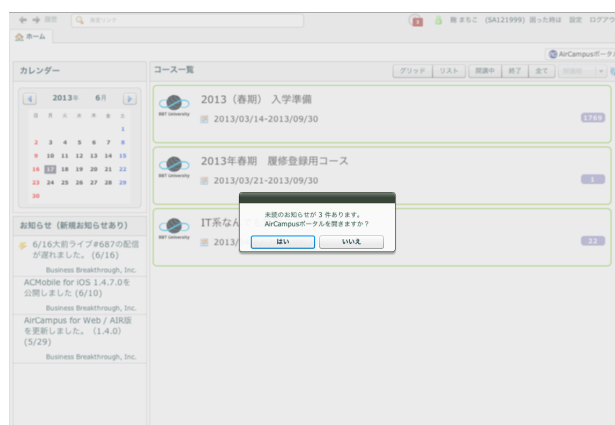


図1 AirCampus for Web

3. ポータル機能を核に再構成

オンラインコースの存在を認知するマーケティングから出願に至り、受講期間を経て修了後の活動までを洗い直し、アクティビティを整理した。(図2)

折々に発されるお知らせはシステム上も連絡手段としても分散しており、受け手から見ると使いづらい状態であった。

そこでこれらのお知らせをアクセスしやすく集約することが可能か、お知らせの種類や方法について分析を行った。典型的な課題と解決策として検討された対応を以下に述べる。

3.1 読まなくてもよい情報が多い

例えば「学習進捗サポートフォーラム」には、科目毎の最終課題に関するリマインドが掲載されていたが、履修していない科目についても表示されるため、自身に必要なものが一目しづらい状況であった。一方で、1/2年次科目で括って配信していたフォーラムについて、3年次以降は学習にも慣れ科目数

も増えることから設置をしなかったが、これを欲する学生も少なからずいた。

3.2 重複して掲載されている

またこのような科目のお知らせは、科目内のアナウンスメントとも重複していた。

3.3 異なる性質のお知らせが混在している

科目毎のコースに目を移してみても、必ず設置される「アナウンスメント」には、開講時の科目紹介や学習方法、成績付けに関するお知らせと、進行に伴い逐次掲載されるお知らせが混在し、また訂正や削除なども見づらくする一因となっていた。

以上のような分析を経て、お知らせ機能と受講機能は明確に分離するのがよいとの仮説に至った。掲載場所、通知方法と学生の属性によるパーソナライズにより最適化することとした。

外のお知らせをポータルに切り出した。科目別お知らせも「進行中の科目」一覧に、科目の受講進度を示すアイコンとともに当該科目の未読お知らせ数を表示しアクセスしやすくした。



図3 AirCampus ポータル

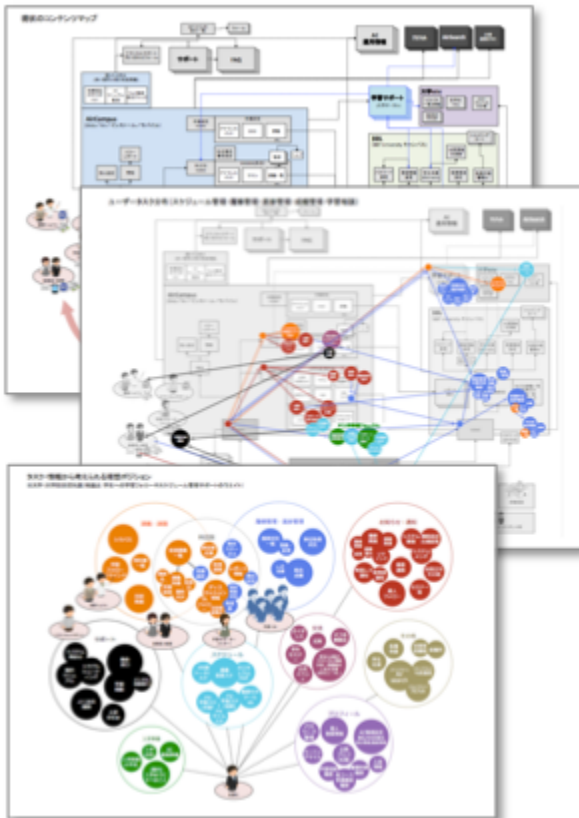


図2 アクティビティの現状分析

5. まとめ

ログイン後のポータルのお知らせが集約され、各種案内も導線が整理されたことで、オンライン大学のキャンパスライフが見通せるようになった。

ポータル構築はまだ計画上の一部を実施した状況である。今後は受講機能の統合を進め、進捗管理など自己調整学習を支援する機能も充実させていく予定である。

参考文献

- (1) 株式会社 ビジネス・ブレイクスルー <http://www.bbt757.com>
- (2) 加地正典,原秀文,伊藤泰史:「ビジネス・ブレイクスルー大学院大学における e ラーニングの現状」教育システム情報学会 研究報告 vol.20,no.1(2005)
- (3) ビジネス・ブレイクスルー大学 <http://bbt.ac>
- (4) 原秀文,小林博継,濱川優介,宇野令一郎,加地正典:「ビジネス・ブレイクスルーにおけるモバイル受講への取り組み」教育システム情報学会 第36回全国大会講演論文集(2011)
- (5) 加地正典,佐藤亮子,原秀文:「SNS とコースベースディスカッションツールの統合実践例」教育システム情報学会 第33回全国大会講演論文集(2008)

4. ポータル構築実施と評価

2013年4月より、AirCampus ポータルを運用開始した。BBT大学の学生は、これまで AirCampus にログインすると表示されていたコースリストに代わり、お知らせや科目の進捗が一目できるポータル画面を表示するようにした。

お知らせは「全体お知らせ」と「科目別お知らせ」に分け、「大学掲示板」コースで運用していた科目以